

平成 25 年度 第 1 回 京の環境共生推進計画評価検討部会  
会議録

日 時 平成 25 年 10 月 1 日（火）午後 2 時～

場 所 職員会館 かもがわ 1 階 第 1 会議室

出席者 小幡部会長，池垣委員，小山委員，村瀬委員，板倉委員，外池氏（奥原委員代理）

欠席者 大久保委員，深尾委員

内 容

1 開会

- ・環境企画部長 挨拶

2 議題

（1）京の環境共生推進計画評価検討部会について

- ・事務局から京の環境共生推進計画評価検討部会について資料 1-1 を用いて説明
- ・事務局から京の環境共生推進計画について資料 1-2 を用いて説明

（2）京の環境共生推進計画の進ちよく状況について

- ・事務局から京の環境共生推進計画の進ちよく状況について資料 2 を用いて説明  
（村瀬委員）P20 快適環境の確保のうち，スポンサー花壇はどこで行われているのか。  
（西尾環境総務課調査係長）市役所前の御池通がスポンサー花壇である。花壇の植え替え作業や維持管理作業について，サポーターを募って御協力いただいている。  
（小幡部会長）今回のポイントとしては，P4 二酸化炭素の排出量が増えた要因として，ページ下の電気の排出係数が基準年度より順次増えている。ただし，産業部門は出荷額が 3 割減で，排出量が 43%削減，運輸部門は自動車の燃費向上が改善につながっている。増加している要因としては，一般家庭の排出量が増えてきていることが挙げられる。P5 太陽光発電が着実に伸びている。P10 二酸化窒素，大気環境の指標は前年並み。公共交通対策を積極的に進めている。P28 廃棄物は，大きな目標を掲げているので目標達成はしていないが，順調に減少している。P33，P35 環境教育等については，小学生の減少で参加者が少なくなっているなどである。  
（小幡部会長）地球温暖化対策推進委員会では，温室効果ガス排出係数の変化による影響について検討しているのか。  
（藤岡地球温暖化対策室担当係長）現在議論しているところである。委員からは，市民や事業者が進捗状況を把握でき，積極的な取組につながるように，例えば電気やガスの使用量で表す多面的な表し方などを御提案いただいている。

(小幡部会長) P4 家庭の一人当たりのエネルギー使用量は基準年度比 13%増となっている。要因をどのように考えているのか。

(藤岡係長) 一世帯当たりの使用量は減っているが、世帯数が増加傾向であり、一人当たりの使用量が増加している。一人、二人の小さい規模の世帯が増加して、五人、六人の大きな規模の世帯が減少しているの、一人当たりエネルギー使用量が増加していると分析している。

(池垣委員) P2 地球温暖化対策の推進 下から 2 段目 DO YOU KYOTO? クレジットの取組に以前参加してみないかと言われたが、3 世帯程度での参加ならともかく 7 世帯を集めるのは難しい。もう少し小さい規模にならないか。この取組はどのくらい浸透しているのか。参加されている方はどの程度いるのか。

(藤岡係長) 家庭、コミュニティについては、おおむね 10 世帯くらいのグループでお願いしている。視点として、個人家庭で減らしてもらうのも重要だが、地域ぐるみの取組という観点で 10 世帯を目安としている。とはいえ、御指摘のとおり、グループ構成が 1 つのハードルになっているため小さい単位での取組を検討中である。事業は平成 23 年 8 月から実施しており、この実績として地域コミュニティの取組では、平成 24 年度は 9 グループが参加し、計 100t 程度削減した。

(小山委員) P7 酸性雨対策について、雨の pH を測っているようだが、これは京都市だけでなく広域で努力しないと意味がない取組ではないか。

(辻環境指導課長) 大気汚染の状況を調べる指標として、近年は酸性雨が使われている。実際、測定値は 4.7 となっており、酸性化していることは確かである。工場や自動車に限らず影響しているので、指標として把握するため調査している。

(板倉委員) 昔、酸性雨は pH3~3.8 でもっとひどかった。現在、測定箇所は、衛生環境研究所の 1 箇所だが、昔は保健所 11 箇所で測定しており、局地的に自動車の排気ガスがひどいときは南側が極端に高い値となることもあった。今はそういうことはなく、むしろ中国からの影響の方が大きい。

(小山委員) P15 透水性舗装延長について、目標を 10km に設定している理由は。

(山田環境企画部長) 透水性は一定年月たつと目詰まりするため、順次舗装を行う必要がある。その期間や予算の都合を踏まえ、1 つの指標として 10km を定めた。目標値の考え方としては、少なくとも 1 年当たりこの程度舗装して、環境に優しい道造りをしていこう、という考え方として御理解いただきたい。

(板倉委員) 10km に定めたのは、やはり予算の都合が大きかったと思う。透水性舗装は、水の地下浸透促進と、自動車走行騒音の低減に効果がある。しかし、一定の年月がたつと機能が低下するため、定期的に舗装を行わなければ、騒音も低くならないし、水の地下浸透も悪くなるため、京都市の予算の範囲で 10km はしてもらいたい、という考え方だったのではないか。

### (3) 平成25年度版 環境レポート(仮称)の作成について

・事務局から平成25年度版 環境レポート(仮称)の作成について資料3を用いて説明

(西尾係長)平成24年度版までの作成イメージは、5本の長期的目標という柱に沿って、具体的な施策や環境指標の推移を掲載する形を採ってきた。平成25年度版は、例のような柱立てに京都市の環境政策を大きく分け、京都市の環境政策の最新情報や、また市民の皆様の具体的取組を紹介するなど、読みやすい内容となるよう見直したい。計画の進捗状況など最新数値の方は、この部会でチェックいただいたものを、京の環境共生推進計画 環境レポート資料編にまとめたい。この資料編は、広く配布する性格のものではないので、今後もホームページで掲載していきたい。市民向けの環境レポートには、指標などの数値に必ずしも拘束されることなく、読みやすい内容としメリハリを付けて作っていきたいと考えている。

(小幡部会長)今年度は、詳細な数値の情報は、資料編としてホームページに掲載する。

資料編は、5つの長期目標のPlan・Do・Check・Actionの記載のみで、重点プロジェクトは載っていないのか。

(西尾係長)目標ごとに整理しているのみであり、重点プロジェクトはない。

(小幡部会長)重点プロジェクトは、環境レポートに入っていたが、資料編には入っていない。今年度の環境レポートは、京都市基本計画の枠組みで環境の取組がどうなっているか、進捗状況を整理し、今までとは違う新しい切り口で報告を行いたいという提案である。内容的には、環境政策の動向や市民に身近な取組になるが、内容を変えることに関して意見を伺いたい。環境レポートは何部配られているのか。

(西尾係長)5,000部発行している。

(小幡部会長)レポートに添付されているアンケートの返却件数は。

(山田環境総務課計画調整担当課長)10件程度であり、余り返ってきていない状況である。今回は、数値編と施策編と分けた形で検討し、もう少し親しみやすい形を目指していきたい。

(小幡部会長)確かに表とか図の細かい情報があっても見ない人は見ない。見る人は見る。

(村瀬委員)よほど関心のある人なら見るが、一般の人は最初から最後まで見る人は少ない。どれくらい真剣に読まれているのか。

(小幡部会長)私は環境計画の授業で紹介しているが。

(山田課長)推察するに、熱心に見られる方、データが欲しい方は環境レポートの資料編で見てもらっている。昨年の部会で、もっと手に取ってもらえるようにしてほしいという要望があった。表や図と施策が混在した内容となっている現状を少し整理しようと検討を行った。

(池垣委員)一般の方に読んでもらうには、文字のフォントも考えなければ、年配の方には小さい。文字数をいかに少なくしてサイズを大きくするか。また、小学生でも

読める易しい内容にするかを考える必要がある。

(村瀬委員) 各区の主な取組の写真などは、別の行政区がどういうことをしているのか関心が高いため、あった方がよい。

(小幡部会長) これは市民に身近な取組ということで載っており、こういうものはあった方がよい。まだイメージが湧かないが、御意見があれば伺いたい。

(山田課長) イメージとしては、文字数をできるだけ少なくし、視覚的にすぐ御理解いただけるような、ダイジェスト的な内容のものを作っていきたい。次の部会で具体的なイメージを示し、御意見をもらって反映させたい。また、キャッチコピーなど工夫しながら見てもらえるようにしたい。

(小幡部会長) 柱は資料3の3つで行くということでよいか。

(西尾係長) あくまで一つの案。レポートの5本の柱は元々平成18年度に立てたもの。市民へのアピールという視点で作成するので、必ずしも計画の柱立てに縛られないということ。

(小山委員) 5,000部作成されて、どう渡すのか。市民が手に入れようと思った際、アクセスしやすいのはどこか。

(山田課長) ホームページにもアップしているが、区役所のエコまちステーションが一番身近である。御希望があれば、発送も可能である。本市出前トークにおいて本冊子を使うことも可能。

(小山委員) 興味と関心がある程度ある方が取りに行くだけなのかなと。

(山田課長) 現状は、区役所、エコロジーセンター、市役所の事業所・事業課だけであり、関心がある方は取りに来ていただく、また発送することとなる。他はホームページアクセスのみ。今後はその配布の方法も含めて検討していく。

(小山委員) ターゲットは、「関心をもった人」なのか、「そうでない人」も目に入ったら見るという機会があった方がいいのかということである。冊子でこの厚みだと量が多い。目に入ったら見るという人にはポスターくらいの分量がいい。

(村瀬委員) 専門的な方はいいが、一市民には真剣に読まないといけないかも。内容はすごく良いが、ページ数が多く、それなりの厚さがあるので、気軽に一部もらっていくという気にはなれない。

(山田課長) 現状の環境レポートは、施策と数値が混在しているので、取組紹介に特化していくこととする。各区のイベントでも積極的に配布してもらえるよう検討する。

(村瀬委員) 伏見区の女性会でも、エコロジーセンターを使って環境学習をしているので、そこでも配るなどしたい。活動している市民が見てくれないと広がらない。実行できるように分かりやすく、また、ごみを減らそうという実感が湧くように。

(山田部長) かつて、クリーンセンターは5工場あったが、現在は3工場まで削減してきた。これは、ごみ減量(4割減)の成果である。一方、3工場体制だと、そのうち1工場が大規模改修を実施しなければならない時期になると、一定期間、2工場でご

みを焼却処理しなければならないため、ごみの減量が進まなければ、運営上、非常に厳しい状況になる。そういったことを分かりやすくお知らせしたい。また、1つのクリーンセンターを建替えなければ、400億円削減できる。年間経費も約10～15億円の削減。そういった分かりやすい切り口に関心を持ってもらい、ごみの減量をより一層進めていきたい。そのうえで専門的なデータも拾えるように工夫をしていきたい。

(村瀬委員) エコ学区を全学区に広めているが、一体何をすればいいのかわからないようである。とにかく一番にごみを減らせばいいんですよと言うと、では減らすにはどうしたらいいかと聞かれるので、それにはエコまちステーションに頼んだらと伝えている。このように、少しずつ皆さんに浸透してきているようだ。

(小幡部会長) ページ数は変わるか。

(山田課長) コンパクトに、しかし分かりやすくする方向で検討したいと考えている。

(小幡部会長) 次の部会を楽しみにしている。新しい方針で、市民に分かりやすい内容、手に取りやすい配布方法を検討していただきたい。

#### (4) 平成25年度 京の環境共生推進計画評価検討部会のスケジュールについて

- ・事務局から平成25年度 京の環境共生推進計画評価検討部会のスケジュールについて資料4を用いて説明

(西尾係長) 環境レポートの作成については、本日のコンセプトに基づき取り掛かることとする。構成を一から見直す。これについて、途中段階になるかもしれないが、次回部会で御報告する。

(小幡部会長) 環境レポートの発行は例年3月だが、審議会の予定が前年より前倒しになっているため、第2回部会では計画の進捗状況の点検結果について、審議会へ報告の内容確認を行う。また、環境レポートの構成案を出してもらいたい。そのうえで議論したい。

### 3 閉会

- ・閉会